

令和3年度 学校評価アンケート【年度末】結果について(お知らせ)

板野中学校長 山田 匠

2月中旬から2月下旬にかけて学校中間評価アンケートをご依頼いたしましたところ、ご協力いただき、誠にありがとうございました。生徒のみなさん、保護者のみなさまからいただきました声をしっかり受け止め、今後の「より良い学校づくり」に活かしてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、集計結果の詳細につきましては、本校ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が80%を超えており、評価のよい項目

◎保護者	
・ 子供は、楽しく学校生活を送っている。	93.7 %
・ 子供は、学校でいじめもなく、友だちと仲よくすごしている。	92.1 %
・ 子供は、場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	89.7 %
・ 子供は、遅刻をしないなど時間を守って生活している。	84.5 %
・ 子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	96.0 %
・ 学校は、生徒同士のトラブルや悩みなど、生徒が相談しやすい環境づくりに努めている。	90.1 %
・ 子供は、予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	92.5 %
・ 保護者は子供の良いところを知っている。	94.8 %
・ 子供は、社会のルールを守る態度が育っている。	92.1 %
・ 子供は、自分を大切な存在であると思っている。	93.3 %
・ 子供は、事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	86.5 %
・ 学校の施設・設備は安全である。	85.5 %
・ 学校は、美しく整えられている。	94.8 %
・ 学校や先生は子ども同士のトラブルや悩みなどに迅速に対応している。	91.7 %
・ 学校や先生は、いじめや差別のない学校づくりをしている。	90.9 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	87.7 %
・ 保護者は、学校の教育方針や教育活動のねらいを理解している。	85.3 %
・ 学校は、積極的にPTA活動に協力したり、地域との連携を大切にしようとしている。	94.4 %
・ 学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。	90.1 %
・ 学校の便りから、学校の取り組みや生徒の活動の様子がよく伝わる。	90.9 %
・ 学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。	96.8 %
◎生徒	
・ 学校での生活は楽しい。	93.0 %
・ 学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よくすごしている。	94.7 %
・ 場に応じて、聞こえる挨拶をしている。	94.0 %
・ 遅刻をしないなど時間を守って生活している。	92.9 %
・ 自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている。	96.8 %
・ 先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。	87.4 %
・ 予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができています。	83.2 %
・ 授業の内容を理解している。	83.9 %
・ 毎日、家庭学習をしている。	81.8 %
・ 社会のルールを守って生活している。	93.0 %
・ 自分が大切な存在であると思っている。	81.8 %
・ 「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。	84.9 %
・ 道徳の時間に積極的に取り組んでいる。	83.2 %
・ 事故、不審者、災害等から身を守る方法を知っている。	92.6 %
・ 学校の施設・設備は安全である。	80.0 %
・ 時間いっぱい清掃に取り組んでいる。	89.5 %
・ 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。	86.3 %
・ いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらようとしている。	93.7 %
・ 学校行事や講演会は、楽しく、充実している。	92.6 %
・ 学校からの便りを保護者にわたしている。	84.2 %

「よくあてはまる」「ややあてはまる」が60%に達しておらず、あまり評価のよくない項目

◎保護者	
・ 子供は、家庭でも読書をしている	29.4 %
・ 子供は、将来の夢や希望の実現に向けて考えている	57.5 %
・ 子供が、道徳でどんなことを学んでいるか知っている	52.8 %
◎生徒	
・ 朝読書以外にも読書をしている。	44.6 %
・ 地域の行事に参加している。	33.7 %

※ うら面もあります。

評価の分析と今後の取り組みについて

☆生徒の調査について

生徒の年度末の学校評価では本年度、80%以上の項目が昨年度調査の15項目よりは増加しています。

「学校生活・生活指導」(設問1～8)の分野では、設問項目6「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」は、87.4%と高い数値ではあるが、その数値が90%を超えることを目標として、また「ややあてはまる」と回答した30.5%が「よくあてはまる」の56.8%の回答に改善されるように、より生徒に寄り添った助言や指導を進めていきます。設問項目8「提出物を忘れずに出している」では、中間評価の84.3%、昨年度末の79.7%よりも低い77.55であったので、提出物をきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考します。

「学力・学習指導」(設問9～12)の分野では、設問項目9「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」は、76.8%と中間調査と比べても10.2%の増加が見られ、NIEへの取り組みや、授業でのタブレット活用に生徒達が意欲的に取り組めた成果と考えられます。一方で、設問項目12「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の47.6%よりも低下傾向にあります。タブレット導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因にあると考えられるため、紙媒体とタブレットの両立を進めるための検証に取り組めます。

「道徳教育」(設問15～18)については、すべての項目で80%を超える高い結果でした。特に、最重点目標に挙げた設問項目17の「『とことん続ける目標』で、自信につながるようになった」は、令和2年度調査の76.2%から今年度中間評価は82.2%へと、そして今回の評価では84.9%と右肩上がりの向上が見られ、学年別のデータでは、「よくあてはまる」の回答が1年生(34.7%)、2年生(41.0%)、3年生(56.7%)のように高学年ほど高い値となり、板野中学校2021年度重点行動目標の浸透状況が見えてきました。

「人権教育」(設問24, 25)でも、すべての項目で80%を超える高い結果となっており、最重点目標の一つである「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」は86.3%となり、昨年度の数値から6.2%の向上となりました。

『明日への扉』での毎日の目標設定と振り返りにしっかりと取り組める生徒達の頑張り、『明日への扉』や『とことん続ける目標』を通じて、生徒と教員、保護者と教員の相互の関係の深まりを実感できる結果となりました。今後とも、「自立型人間の育成」に向けてさらに高められるように努力したい。「とことん続ける目標」の徹底、明日への扉を使った振り返りへの取り組みを通して、自己肯定感をさらに磨き、それによって学習意欲をさらに増加させるよう取り組んでいきます。

今後の課題は次の7つの項目です。

- I 自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている
- II 朝読書以外にも読書をしている
- III 自分には良いところがある
- IV 自分が大切な存在であると思っている
- V 「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった
- VI 学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる
- VII いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている

中でも設問項目 V, VIは今年度前半に引き続き最重点目標として継続します。「とことん続ける目標」の徹底で自己肯定感を磨き、それによって学習意欲をさらに増加させるよう取り組みます。そして、学校からの情報発信力をさらに向上し、いじめ対応を素早く、スピード感をもって対処し、学習の土台となる「人間力づくり」「人間関係づくり」を最優先に取り組めます。

☆保護者方々の調査について

保護者の年度末評価の結果において、全30問の設問項目のうち、(中間調査時には23問)22問が昨年度の回答よりも「よくあてはまる」「ややあてはまる」が増加しています。

設問項目1～7の学校生活全般については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えており、90%以上の回答や、「よくあてはまる」の回答だけで80%を超えるものもあり、満足していただいているといえます。また、これらの回答は生徒の回答とも類似しています。昨年までのデータと比較しても、若干下がったものが2項目ありますが、その他の設問項目では少しずつ向上しています。好評価の中でも特に登下校の生徒の評価がよく出ている。「子供は、自転車で登校するときはヘルメットをかぶっている」の調査は、「よくあてはまる」だけで、89.3%の回答があり、「全くあてはまらない」の回答は1.6%となっています。しかし、生徒の調査からも確認される課題としては、設問項目8「子供は、提出物を忘れずに出している。」では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が75.8%であり、生徒達が提出物がきちんと出せるように、声かけのみにとどまらず忘れずに出せるように提出物の内容とその設定方法について、見直していきます。

「子供は、自分の考えや意見を伝える力が身についている。」の調査は昨年度に引き続き73.4%でした。内訳は「よくあてはまる」が26.6%、「ややあてはまる」が46.8%と少しずつ増加している。生徒達と同じ設問への回答は「よくあてはまる」38.2%となっており、生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらったりする情報発信をさらに強化する必要があることがわかりました。また、「子供は『とことん続ける目標』で、自信につながっている。」の肯定的な意見がR1年度の57.3%からR2年度は66.2%、R3年度中間調査では71.2%、そして今回の年度末調査では79.4%に大きく伸びました。保護者に「とことん続ける目標」の取組が少しずつ浸透してきたと言えます。この活動は家庭教育と学校教育が一体となって取り組みたいものでもあり、生徒が設定している目標を保護者に知ってもらうとともに、振り返りシートの保護者の記入について協力を依頼することで、学校と家庭が歩調を合わせて生徒の自己肯定感の育成をさらに進めていきます。

人権教育の設問項目24, 25において、肯定的な意見は前回の中間調査をしのぎ、90%を超えた結果が出ている。講演会等で積極的に保護者の参加も勧めてきた成果だと考えています。

保護者への情報発信はいつでも設問項目においても好評価といえます。「学校から発信されるホームページ、マチコメメールは役に立っている。」では、96.8%の好意的な回答が得られました。今後もコロナ禍であるからこそ、きめ細やかな情報発信に努めていきます。

今後も「子どもたちのより良い成長」を目指し、学校改善に取り組んでまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。